

## C. アレクザンダー「パタン・ランゲージ」に描かれた都市のインテリア —屋外環境を対象としたインテリアの記号論的分析—

Interiors in the town expressed in PATTERN LANGUAGE, C. Alexander  
A semiotic analysis on interiors over the outdoor

灰山彰好  
HAIYAMA Akiyoshi

### 要 旨

クリストファー・アレクザンダーの著作「パタン・ランゲージ」を、レトリカルな文体から平易な表意システムを導出するバルト記号論を応用しつつ、市民参加型街づくりの基底となる「都市のインテリア」を探求するためのガイドとして読み解いている。パタン・ランゲージ 253 編では都市環境が常に等身大のスケール（インテリア研究の存在理由でもある）で観察されているとの仮説にもとづいて、都市のインテリアに該当するデザインコンセプトの導出を試み、結果的に open space, (way, water, green), space, detail の 6 コンセプトで要約できる 164 編のパタン・ランゲージが都市のインテリアに該当すること、掲げられたテーマが改めて斬新で有用であること等を明らかにした。  
キーワード：パタン・ランゲージ、記号論、都市、インテリア、デザインコンセプト

### 1. 研究の目的

インテリア interior の語彙どおり、その研究対象は室内の事象に限定されがちであり、近年、やや窮屈さを感じる建築学系の研究者からは、エクステリアもインテリアの対象ではないか、との提案も聞かれる。建築学とインテリア学の違いは何か。どのように棲み分けたらよいか。この研究は約 30 年前、建築系大学の学生や若手研究者に大きな影響力を及ぼしたニューレフト建築学の書「パタン・ランゲージ」<sup>(1)</sup> が実は都市のインテリア、つまり都市とインテリアの間（はざま、境界域）を拓こうとした書ではなかったか—との仮説を立て、その検証を通して、この問いの解決に手掛かりを得ようと企図するものである。

本書の内容は市民参加型の都市計画、ユーザー参加型の施設計画、そして家族参加型の住宅計画における対話の技法集 253 編である。著者クリストファー・アレクザンダーは、先行する研究では大型コンピューターを駆使して計画項目相互の巨大な相関図（ツリー）を構築しようとしてい

### Summary

In this research studying interiors in the town, the author tried to convert the rhetorical expressions in “A PATTERN LANGUAGE” written by C. Alexander, according to the theory of semiotic study, to a list noted by plane sentences. The featured characteristic of his study is his life-sized eyes watching town environments, which is the same point as the interior study. Therefore the author tried to introduce the design concepts about regarding the interiors in town from the 253 languages and as in a result picked up six design concepts, open space, (way, water, green), space, detail, and 164 languages as regards the town interior.

**Keywords:** *Pattern Language, Semiotics, Town, Interior, Design concept*

た経緯が知られているので、読者は計画案の自動生成を期待しがちである。事実、本書序文の読み方ガイドに、ツリー図の名残が垣間見える。しかしアレクザンダーは「都市はツリーではない」と宣言して、バイブル仕立ての本書が生まれたこともまた、周知のとおりである。

とはいえ相互に関連する 253 編の読破は、熱心なファンであっても並大抵ではない。また拾い読みで我慢するとしても、全体像が見えない部分的知見には説得力が欠ける。この研究では、言葉機能の普遍拡大を図る記号論を援用して 253 編のパタン・ランゲージを読解し、都市のインテリアに関するアレクザンダーの取り組みに焦点を当てる。

アレクザンダーに共感を覚えるのは対象の大小にかかわらず<等身大>の視点から取り組む姿勢であり、これはインテリアの考え方と共通するが、学ぶべきはパタン・ランゲージが常に社会的、時に政治的メッセージを含意している点である。等身大の視点から大きな課題に取り組む—このことが改めて旧きを温めようとする本研究の趣意である。

## 2. 研究の方法

### (1) 予備的考察／パタン・ランゲージの意味作用

衣食住のどの生活においても実質が大切であるが、工夫したり表現したりする思考力は言葉に拠っているし、文化レベルでの議論では言葉の方が先行する事態も生じる。フランスの記号学者ロラン・バルトは著書「モードの体系」<sup>(2)</sup>において、ファッション雑誌に書かれた衣服の方が、現実の衣服よりも研究資料として有益であることを示した。

バルト記号論<sup>(3)</sup>の中核をなす意味作用 (signification) の仕組みをパタン・ランゲージに置き換えて示すと、図 1 のようになる。

パタン・ランゲージ		メッセージ	
メタ言語 (コンセプト)	計画課題		
	人 もの	活動 機能	

図 1 意味作用の単位

言葉、あるいは記号の第一の機能は、把握したいと考えている事柄の名付け (denotation) である。われわれはイス、テーブルの配置の違いから、そこで行われる事柄に微妙な違いが生じることを知っており、呼び分けが必要となる。例えば<家族団らん>について考えてみる。プランナーはまず、この漠然とした計画課題をメタ言語 (上位言語) によって要約的に把握し、イス、テーブル他下位言語の配置に工夫をこらす。この例のような家具什器のレイアウトで表現できる規模の計画対象は、例えば **space** といったメタ言語によって括っておくことができよう。なお、メタ言語に当たる計画用語はデザインコンセプトであるので、以後は「コンセプト」を当てるものとする。

パタン・ランゲージとは、計画対象を平易なコンセプト把握しつつ、よりイメージが膨らみ、かつ他の計画対象との違いが的確に表現されるよう工夫された計画語彙集である。<家族団らん>に対応する代表的な例としては、**139 FARMHOUSE KITCHEN／農家風キッチン**が挙げられる。コンセプト **space** に潤色を加えてメッセージを発信するよう仕組まれた記号機能はコノテーション (connotation) と呼ばれ、アレクサンダーの説明では作る人と食べる人を分けない食卓形式とあるから、メッセージとしては家族間の協力意識 **commonness** が思い浮かぶ。なお、denotation と connotation は論理学でいう外延と内包に当たる用語の援用である。「住宅とは何か」を説明する時に挙げる学校、病

院、保育所・・・そして住宅等々対象の外形の例示が住宅概念の外延であり、一方居間、座敷、キッチン、食卓、食卓の花・・・等々内容の例示が、住宅概念の内包である。パタン・ランゲージは、豊富な観察体験を基礎にして都市・建築空間の中に事細かく分け入る記述法を特色としており、すぐれて内包的 **connotative** な論説であるといえよう。

プランナーが誰でも経験する「物と言葉の間」での行き交いをバルトはメタ記号とコノテーションの二重の記号機能<sup>(4)</sup>として巧みに説明しており、この研究のような計画ノートの読解には有意義である。本研究でいう読解とは、各々1~4 ページにわたる記述を意味作用のかたちに縮約し、より見通しのよい索引に仕立てることである。

### (2) 読解の手順

#### デザインコンセプトの分類

まず、253 語群をいくつかのコンセプトによって、分類的に把握しなければならない。アレクサンダーもまた、辞典編纂の手順としてまずここから着手し、計画対象の大きさ順に **towns, buildings**, そして **construction** の3つに区分しているの、これらを基本にしつつ、本研究の主旨に照らして適宜修正を加えるものとする。

最初に違和感を覚えるのが **construction** である。先行する2語と用語的に並び難く、コンセプトとして即物的にすぎる。この項に描かれたパタン・ランゲージの内容 (例えば **236 WINDOWS WHICH OPEN WIDE／いっぱい開く窓**) からみて、ここには **detail** が入るべきではないかと思われる (コンセプトは個々のパタン・ランゲージに当てられるので単数である)。なおこの項目には純然たる工法の記述も含まれているから、これらは **structure** と特記して、読解の対象から除外するものとする。また **towns** の最初の数例は、都市よりさらに大きな地域像を俯瞰するパタン・ランゲージであるので、これらには **region** を当てて区別しておくものとする。また建物の項には **buildings** と当てられているが、建物についての記述は **towns** 中にも多数含まれ、分類上の矛盾が残ったままであった。そこで本研究では建物は施設 **facility** と表記して、**towns** から独立させて扱うこととした。

さて、**detail** は寸法的にみて都市のインテリアのコンセプトと呼ぶにふさわしいが、では **town, facility** はどうか。例えば、**town** で把握される **61 SMALL PUBLIC SQUARES／小さな広場**は、町の活気に欠かせない、市民の主体的な使用が可能な小さなスペースの必要性を述べたパタン・ラ

ランゲージであり、ここで取り上げられているコンセプトは町自体ではなく、町の中のある特色をもったスペースを指す。私的空間のコンセプトを **space** と表記するならば、公的空間のそれは **open space** であろう。この時 **town** は、**open space** よりも更に上位の言語（メタ・メタ言語）に位置づけられよう。さらに **open space** には、**way**（小路）、**green**（ミドリ）、**water**（水辺）等々バリエーションの存在が想起される。

以上のコンセプトによって個々のパタン・ランゲージを標識化すれば、都市のインテリアに該当しないパタン・ランゲージも、結果的に明記されることになる。

### メッセージの類推

「農家風キッチン」「いっぱいに関く窓」などの形容は、メイド役を必要とする民主的でない食卓、プライバシー保護への過度な反応をやんわりと抑制し、もうひとつの可能性へと読者を（そしてクライアントを）誘導する、実に軽妙なレトリックである。どのパタン・ランゲージにおいてもアレクサンダーが言い当てようと試みているのは、私性に対する公性、秘匿性に対する開放性といった、常に対を成す価値観、つまり意味軸（semantic axis）<sup>(5)</sup> であり、読者も読みながらその選択に参加できる。価値観は個人の自由を尊ぶあまりによくバラバラと形容されるが、しかし意味軸は有限であって、むしろ整理されて少ないほど、論説としては明快になる。以上の観点に立って、本書に描かれた意味軸を筆者も言い当ててみようと思う。

#### (1) commonness ⇔ individuality (diversity)

**共同性（私の制限） 私性（公の制限，多様性）**

パタン・ランゲージを通読してすぐに気付くのは、道路、公園など公的な部分では私性の発露を尊重し、家の内外など個人のテリトリーでは私性の抑制と公共への参加を訴えるなど、伝統社会をモデルにした語り口である。個人的活動が許容される都市空間は、都市のインテリアの主たる一ある意味では常套的な一主題であろう。一方でアレクサンダーは、236 **いっぱいに関く窓**のような個人テリトリーでの社会参加の必要性をも説いている。今日の都市空間に欠ける部分であって、この指摘は示唆的である。

#### (2) belonging ⇔ independence (identity)

**帰属性 自立性（主体性）**

都市空間の地域的特色をサブカルチャーと呼び、持続する方法を提案し、住民に対しては帰属意識の涵養を訴えている。13 **SUBCULTURE BOUNDARY**／サブカルチャーの境界、

### 14 IDENTIFIABLE NEIGHBORHOOD／見分けやすい近隣など。

#### (3) quietness ⇔ activeness

**静寂，平穩 活動性**

アクティビティの萌芽をさがし育てる具体的な手法を微に入って多数提案する一方で、59 **QUIET BACKS**／静かな裏道など静けさの必要性も、やや控えめに指摘している。

#### (4) little learning ⇔ learning

**無学，無知 学習性**

学校帰りの子供が、道草しながら大人の（それもプロの職人の）仕事をみて自分の将来の職能を予感した少し以前のコミュニティ像の復活を、アレクサンダーは提唱する。

83 **MASTER AND APPRENTICES**／師匠と弟子、85 **SHOPFRONT SCHOOLS**／店先学校など。郊外ショッピングセンターの擬似的町並みから、子供たちは一体何を学ばばよいのか。この意味軸においてのみ、対立は絶対的である。

#### (5) naturalness ⇔ functionality

**自然性 利便性（機能性）**

近代以前のコミュニティにおいて見られた、自然な発展と成長過程を経て行きついた都市や建物の機能美・機能的法則性（目に見えない力学）について多数言及している。

21 **FOUR-STORY LIMIT**／4階建ての高さ制限、22 **NINE PERCENT PARKING**／駐車場は9%以下で、など。これらは自然的に、都市内自然との共存の問題に繋がる。

#### (6) safeness ⇔ stimulation (thrillingness)

**安心・安全感 刺激感（スリル感）**

市民が住まいや地域に求める基本条件は安心・安全であるが、しかしそれだけの生涯はつまらない。一年に何回かの羽目はずした祭り、盛り場の喧騒から受ける刺激もまた、都市空間に欠かせない魅力である。63 **DANCING IN THE STREET**／通りで踊る、73 **ADVENTURE PLAYGROUND**／冒険できる遊び場など。

以上6通りの意味軸を発見したところで、253 **パタン・ランゲージの踏査を終えた**。以上の作業は、パタン・ランゲージの検索を意図したものであり、例えば住民の地域への**帰属意識**についてヒントを得たいとき、該当するパタン・ランゲージを選び出すことができる。

### 3. 読解

新たに提案したコンセプト5分類に沿って再検索したパタン・ランゲージ一覧をく表1 **パタン・ランゲージのコンセプトとメッセージ（その1～3）**に掲げる。同表には、

**region, town, facility** 中の都市のインテリアに係るコンセプトと併記し、全パターン・ランゲージにおける各々の位置づけを表現した。またメッセージは内包的文体の特徴として多分に多義的であるので、同表に掲載した代表的と思えるメッセージに該当する記述を、右欄に要約して注記しておいた。また原著の分類意図を参考するために、**towns** (1~92) の番号を太字で、**construction** (205~253) の番号を斜体で特記した。

#### 4. 考察／都市のインテリア

##### (1) region

経済成長の過程で開発予定地に位置づけられ蚕食された郊外地域が、本来の田園地域として自立再生するための農村計画的提案が、数例述べられている。

##### (2) town

行政単位としての町ではなく、マチの語感で捉えられる規模の、等身大の計画課題が数多く取り上げられている。例えば **43 UNIVERSITY AS A MARKETPLACE／大学は市場** を見てみよう。「私的な活動が期待される公共空間」を意味する新たな計画コンセプト **open space** によって細分類してみると、課題がより明確になる。大学は思想の市場であるべきであって、キャンパスの中に孤立してはならない、とアレクサンダーは主張する。先に例示した**店先学校**の大学版である。キャンパスにカフェを作るのではなくカフェを教室にしたらどうかとの提案は、都市のインテリアを模索する上で格好のモデルであるといえる。**open space** の例題は「小さな広場」のバリエーションとして数多く出てくる。私的な活動 **activity** を誘発し、またそれらが許容されるためには、広場は小さくなくてはならないのである。

**open space** のバリエーションであるミチ（路地）、ミドリ、水辺などは、表1においては **way, green, water** として特記した。**way** に関する記述は、今日大きな社会問題となっている「シャッター通り化」への警告である。小店を活性化してミチの機能を持続し、マチに住み続ける工夫をし続けること—まさにインテリア研究の主題が語られているといえよう。

**Green, water** は、都市内自然に関する記述である。例えば「3分で行ける自然」を主張する **60 ACCESSIBLE GREEN／手近なミドリ** は、アレクサンダー環境理論の真骨頂である。永年の緑化行政の成果として近代都市にはミドリが多いが、その成果を楽しむ人間は案外少ない。個人の力が、そしてインテリアデザインの力が試される<手近な>ケー

スである。もうひとつの事例であるパーキングは、個人規模空地開発の代表的事例であるが、アレクサンダーはこれを緑化して小広場に見立てる提案をしている。これもまた手近な実現可能例であるといえよう。

##### (3) facility

アレクサンダーの編集意図は **towns** では建築群の、そして **buildings** では個々の建築のパターン・ランゲージを描くことであつたと考えられるが、建築にせよ建築群にせよ、ほぼすべてが種々の建築概念の外延 (denotation) を豊かにする方策の記述であつて、典型的な建築学的課題の提案となっている。

数少ない例外の一つに **101 BUILDING THOROUGHFARE／通り抜けられる建物** がある。二つの街路にまたがる店舗には通り抜け道として利用される弊害が指摘されるが、通行人も客と考えると状況は一転し、私的空間をミチとして公開するインテリアデザインの技法が問われることになる。

##### (4) space

建物の、マチのどこかで実現したい **space** と呼ぶにふさわしい規模のパターン・ランゲージの数々が、253 個中の最大多数を占める。まず目につくのが **83 MASTER AND APPRENTICES／師匠と弟子**、**84 TEENAGE SOCIETY／ティーンエイジャー社会**、**85 SHOPFRONT SCHOOLS／店先学校** など一連の、子供の都市環境に関する題材である。子供の理想的な教育環境は—と問うのではなく、現実の中に善き側面を見出そうとするアレクサンダーの思想 (楽観主義) の根幹が垣間見える数章である。

**space** (空間) を意識するなら、マチ、公共施設、住まいの中での<心地よい居場所>であろう。ブラブラ歩きが楽しめる小路の計画要件とは何か。**88 STREET CAFÉ／ストリートカフェ**、**93 FOOD STANDS／屋台** などの小店の出店にも何かのきっかけが要るのではないか。行政へ働きかけてクルマの通り抜けを止め、**100 PEDESTRIAN STREET／歩行者街路** とするのが最初の手順であろう。公共施設が地域コミュニケーションの中心として機能するには、担当職員の笑顔 (**149 RECEPTION WELCOMES YOU／あたたかい受付**) が欠かせない。居心地のよいマチでは **94 SLEEPING IN PUBLIC／人前の居眠り** も見られるようになる。

行政に注文をつけるなら、市民住民もまた私権を譲歩する必要がある。**106 POSITIVE OUTDOOR SPACE／「正」の戶外スペース**、**130 ENTRANCE ROOM／玄関室**、**140 PRIVATE TERRACE ON THE STREET／通りのテラス**、そして **242 FRONT DOOR BENCH／玄関前にベンチ** 等々、路に向かって開いた

表1 パタン・ランゲージのコンセプトとメッセージ(その1)

No.	パタン・ランゲージ	コンセプト	メッセージ	要 約	
1	1 INDEPENDENT REGIONS/自立した地域	region	independence	独自の文化を形成するほど小規模かつ自立的・・・	
2	2 THE DISTRIBUTION OF TOWNS/町の分布	region	identity	地域内の人間定住地にあるべき特性は?	
3	3 CITY COUNTRY FINGERS/フィンガー状の都市と田園	region	naturalness	郊外ではなく田園を	
4	4 AGRICULTURAL VALLEYS/農業渓谷	region	naturalness	郊外ではなく田園を	
5	5 LACE OF COUNTRY STREETS/田舎道の網目	region	naturalness	郊外ではなく田園を	
6	6 COUNTRY TOWNS/田舎町	region	naturalness	郊外ではなく田園を	
7	7 THE COUNTRY SIDE/田園	region	naturalness	郊外ではなく田園を	
8	12 COMMUNITY OF 7000/7000人のコミュニティー	region	individuality	個人の声が反映できる大きさのコミュニティー	
9	8 MOSAIC OF SUBCULTURES/モザイク状のサブカルチャー	town	identity	都市の輪郭を明らかにする・・・	
10	9 SCATTERED WORK/職場の分散	town	diversity	職住近接	
11	10 MAGIC OF THE CITY/都市の魔力	town	open space	diversity	中心地区はその多様性ゆえに・・・
12	11 LOCAL TRANSPORT AREAS/地区交通のエリア	town	safeness	自動車利用を思いとどませ・・・	
13	13 SUBCULTURE BOUNDARY/サブカルチャーの境界	town	independence	境界を設けて完成せねばならない	
14	14 IDENTIFIABLE NEIGHBORHOOD/見分けやすい近隣	town	belonging	帰属すべき見分けやすい空間単位	
15	15 NEIGHBORHOOD BOUNDARY/近隣の境界	town	independence	第二の小さな境界	
16	16 WEB OF PUBLIC TRANSPORTATION/公共輸送網	town	diversity	異なったシステム間の豊富な接続手段	
17	17 RING ROADS/環状道路	town	independence	地区交通エリアの輪郭	
18	18 NETWORK OF LEARNING/地域学習のネットワーク	town	learning	若者に生き方を教える都市のカリキュラム	
19	19 WEB OF SHOPPING/商店網	town	functionality	分散経済の強化	
20	20 MINI-BUSES/ミニバス	town	functionality	融通性の高い公共交通	
21	23 PARALLEL ROADS/平行する道路	town	safeness	主要道路は互いに反行する一方通行路として	
22	24 SACRED SITES/聖地	town	open space	belonging	地域と住民のルーツ
23	25 ACCESS TO WATER/親水空間	town	water	naturalness	水は完全な自然
24	26 LIFE CYCLE/ライフサイクル	town	diversity	diversity	若者の街、老人の村があっけいはいけない
25	27 MEN AND WOMEN/男と女	town	diversity	diversity	男女両方の生活を反映する・・・
26	28 ECCENTRIC NUCLEUS/中心を外れた核	town	activity	diversity	地区センターはサブカルチャーの境界上に
27	29 DENSITY RINGS/密度の等高線	town	activity	activity	密度変化の算出法
28	30 ACTIVITY NODES/アクティビティの結節点	town	activity	activity	公共施設は地域活動の結節点上に
29	31 PROMENADE/プロムナード(遊歩道)	town	way	activity	サブカルチャーの背骨を形成する
30	32 SHOPPING STREET/買い物通り	town	way	activity	前・自動車時代の買い物街路
31	33 NIGHT LIFE/ナイトライフ	town	activity	activity	十分に明るく、安全で活気のある・・・
32	34 INTERCHANGE/乗りかえ地点	town	functionality	public	公共輸送機関の中心的役割
33	35 HOUSEHOLD MIX/世帯の混交	town	diversity	diversity	地域内の多様な世帯の混合が・・・
34	36 DEGREES OF PUBLICNESS/公共性の度合い	town	diversity	diversity	活動的な場所に住みたがる人もいれば・・・
35	37 OLD PEOPLE EVERYWHERE/どこにも老人	town	diversity	diversity	老人は若者を必要とし、若者も老人を必要とする
36	41 WORK COMMUNITY/仕事コミュニティー	town	diversity	diversity	仕事分散化され住居地域の内外に織り込まれ・・・
37	42 INDUSTRIAL RIBBON/リボン状の工場地帯	town	diversity	diversity	サブカルチャーの境界の形成を促す
38	43 UNIVERSITY AS A MARKETPLACE/大学は市場	town	open space	learning	街中に散らばった思想の市場
39	45 NECKLAGE OF COMMUNITY PROJECTS/コミュニティー活動の輪	town	open space	activity	コミュニティー活動の足場
40	49 LOOPED LOCAL ROADS/ループ状の地区道路	town	quietness	quietness	自宅のそばに高速度の通過交通を望む者はいない
41	50 T JUNCTIONS/T字路	town	safeness	safeness	十字路の交通事故発生率は・・・
42	51 GREEN STREETS/緑の路	town	way	naturalness	地区道路の性格付けに役立つ
43	52 NETWORK OF PATHS AND CARS/人と車のネットワーク	town	activity	activity	様々な活動がクルマと歩行者の合流点で・・・
44	53 MAIN GATEWAYS/街のメインゲート	town	open space	identity	明瞭な識別性を確保
45	54 ROAD CROSSING/横断歩道	town	way	safeness	車には歩行者を脅迫し服従させる力がある
46	55 RAISED WALK/小高い歩道	town	way	safeness	車より45cm高く位置すると歩行者は安心感を・・・
47	56 BIKE PATHS AND RACKS/自転車路と置き場	town	way	safeness	地区交通区域には・・・自転車路のシステムが
48	57 CHILDREN IN THE CITY/都市の子供	town	open space	safeness	子供が勝手気ままに安全に振舞える場所を
49	58 CARNIVAL/お祭り	town	open space	activity	プロムナードがだしぬけに野性的なリズムで・・・
50	59 QUIET BACKS/静かな裏道	town	way	quietness	街路や往来や人付き合いから逃れて・・・
51	60 ACCESSIBLE GREEN/手近なミドリ	town	green	naturalness	気軽に出かけられる(3分以内)緑の公開地
52	61 SMALL PUBLIC SQUARES/小さな広場	town	open space	activity	最大かつ公的な部屋、だが広すぎると・・・
53	63 DANCING IN THE STREET/通りで踊る	town	way	stimulation	街頭の踊りは至上の歓喜の象徴である
54	64 POOLS AND STREAMS/池と小川	town	water	naturalness	大地の自然な姿を破壊してよいという理由はない
55	65 BIRTH PLACES/出産の場所	town	naturalness	naturalness	出産は健康な社会の要素
56	66 HOLY GROUND/聖域	town	open space	naturalness	教会や寺院は・・・この世の門口である
57	67 COMMON LAND/コモンスペース(共有地)	town	open space	functionality	住宅クラスター内部のより私的で小規模な共有地
58	68 CONNECTED PLAY/遊び場の連鎖	town	open space	safeness	子供は子供を必要としている
59	70 GRAVE SITES/墓地	town	open space	naturalness	死という事実を近隣の公共空間に統合する
60	71 STILL WATER/静かな水辺	town	water	naturalness	泳げる水たまり
61	72 LOCAL SPORTS/ローカルスポーツ	town	activity	activity	人の肉体はいくら使ってもすり減らないが・・・
62	73 ADVENTURE PLAYGROUND/冒険できる遊び場	town	open space	stimulation	ガラタを相手により野性的な・・・
63	74 ANIMALS/動物たち	town	open space	learning	ペットは楽しいが余りに人間化して・・・
64	120 PATHS AND GOALS/歩行路と目標	town	way	stimulation	中間的な目的地は絶えず変化する
65	121 PATH SHAPE/歩行路のかたち	town	way	stimulation	街路は単なる通過空間ではなく・・・
66	123 PEDESTRIAN DENSITY/歩行者の密度	town	way	activity	47m/人を超えるとその領域は死に始める
67	124 ACTIVITY POCKETS/小さな人だまり	town	open space	activity	公共施設の生活はその外縁部に形成される
68	126 SOMETHING ROUGHLY IN THE MIDDLE/中央部分に何か	town	open space	identity	中心のない広場は人の寄り付かない間の抜けた・・・
69	21 FOUR-STORY LIMIT/4階建ての高さ制限	facility	functionality	functionality	地域環境の質を規制するコミュニティー計画
70	22 NINE PERCENT PARKING/駐車場は9%以下	facility	functionality	functionality	地域環境の質を規制するコミュニティー計画
71	37 HOUSE CLUSTER/住宅群(クラスター)	facility	functionality	functionality	共有する公共地を囲む一かたまりの・・・
72	38 ROW HOUSES/連続住宅	facility	functionality	functionality	34-37戸/hrの密度では不可欠
73	39 HOUSING HILL/段状住宅	facility	functionality	functionality	74戸/hr以上では住宅クラスターは段状になる
74	44 LOCAL TOWN HALL/地域のタウンホール	facility	activity	activity	政治活動の核となる
75	46 MARKET OF MANY SHOPS/多店舗マーケット	facility	diversity	diversity	現代的なスーパーマーケットの代わりに・・・
76	47 HEALTH CENTER/保健センター	facility	safeness	safeness	不健康は病院や薬では治せない
77	48 HOUSING IN BETWEEN/境目の住宅	facility	activity	activity	・・・間に住宅があると自ら備える活力により・・・
78	69 PUBLIC OUTDOOR ROOM/戸外の共用室	facility	functionality	functionality	偶発性と多様性に対応する明確で明確過ぎない・・・
79	75 THE FAMILY/家族	facility	individuality	individuality	少なくとも三代で構成される・・・
80	76 HOUSE FOR A SMALL FAMILY/小家族向け住宅	facility	individuality	individuality	夫婦の領域、子供の領域、そして両者をつなぐ・・・
81	77 HOUSE FOR A COUPLE/カップル向けの住宅	facility	individuality	individuality	夫の領域、妻の領域、そして両者をつなぐ・・・
82	78 HOUSE FOR ONE PERSON/単身者向けの住宅	facility	individuality	individuality	単身生活特有の自足性、単純性、簡便性・・・
83	79 YOUR OWN HOME/自分だけの住まい	facility	individuality	individuality	自分の持ち家でないといふ真のくつろぎや健康は・・・
84	80 SELF-GOVERNING WORKSHOPS AND OFFICES/自主管理の作業場・オフィス	facility	individuality	individuality	歯車の一つとなった人間は仕事を楽しくできない

太字:1~92(町、コミュニティー)、標準:93~204(建物)、斜体:205~253(施工)

表1 パタン・ランゲージのコンセプトとメッセージ(その2)

No.	パタン・ランゲージ	コンセプト	メッセージ	要約
85	<b>82</b> OFFICE CONNECTIONS/オフィス内の連携	facility	activity	迷惑距離を超えさしななければ...
86	<b>86</b> CHILDREN'S HOME/子供の家	facility	learning	両親なしで数時間ある日は数日間過ごせる...
87	<b>87</b> INDIVIDUALLY OWNED SHOPS/個人商店	facility	independence	生活的に運営される店
88	<b>89</b> CORNER GROCERY/町かどの雑貨店	facility	individuality	近隣の一体化に役立つ
89	<b>90</b> BEER HALL/ビアホール	facility	stimulation	カフェより大がかりで騒がしい店が...
90	<b>91</b> TRAVELER'S INN/旅館(はたご)	facility	stimulation	見知らぬ者同士が...
91	<b>95</b> BUILDING COMPLEX/複合建築	facility	diversity	より小さな建物、部分の複合体
92	<b>96</b> NUMBER OF STORIES/階数	facility	functionality	周囲の建物と連続的な環境組織
93	<b>97</b> SHIELDED PARKING/駐車場を隠す	facility	naturalness	車であふれる大駐車ビルは非人間的で...
94	<b>98</b> CIRCULATION REALMS/段階的な動線領域	facility	individuality	大きな領域から小さな領域へ段階的に
95	<b>99</b> MAIN BUILDING/中心となる建物	facility	identity	中心のない建物の複合体は頭のない人間...
96	<b>101</b> BUIDING THOROUGHFARE/通り抜けられる建物	facility	open space	functionality
97	<b>102</b> FAMILY OF ENTRANCES/一連のエントランス	facility	detail	identity
98	<b>104</b> SITE REPAIR/敷地の修復	facility	activity	入口は大胆で見分けやすい造りにすること
99	<b>107</b> WINGS OF LIGHT/自然採光の翼棟	facility	activity	建物は最良ではなく、むしろ最悪の土地に建てる...
100	<b>108</b> CONNECTED BUILDINGS/建物をつなぐ	facility	diversity	naturalness
101	<b>109</b> LONG THIN HOUSE/細長い家	facility	space	diversity
102	<b>110</b> MAIN ENTRANCE/正面玄関	facility	space	identity
103	<b>116</b> CASCADE OF ROOFS/重層する屋根	facility	activity	naturalness
104	<b>117</b> SHELTERING ROOF/守りの屋根	facility	activity	safeness
105	<b>118</b> ROOF GARDEN/屋上ガーデン	facility	activity	activity
106	<b>122</b> BUILDING FRONTS/建物の正面	facility	activity	individuality
107	<b>129</b> COMMON AREAS AT THE HEART/中心部には共用室を	facility	space	commonness
108	<b>144</b> BATHING ROOM/風呂屋	facility	activity	belonging
109	<b>145</b> BULK STORAGE/物置	facility	activity	functionality
110	<b>153</b> ROOMS TO RENT/貸せる部屋	facility	activity	functionality
111	<b>168</b> CONNECTION TO THE EARTH/大地へのなじみ	facility	activity	naturalness
112	<b>178</b> COMPOST/コンポスト	facility	activity	naturalness
113	<b>62</b> HIGH PLACES/高台	space	activity	stimulation
114	<b>81</b> SMALL SERVICES WITHOUT RED TAPE/形式抜きの小さな窓口	space	activity	individuality
115	<b>83</b> MASTER AND APPRENTICES/師匠と弟子	space	activity	learning
116	<b>84</b> TEENAGE SOCIETY/ティーンエイジャー社会	space	activity	learning
117	<b>85</b> SHOPFRONT SCHOOLS/店先学校	space	activity	learning
118	<b>88</b> STREET CAFÉ/ストリートカフェ	space	activity	individuality
119	<b>92</b> BUS STOP/バス停	space	activity	safeness
120	<b>93</b> FOOD STANDS/屋台	space	activity	activity
121	<b>94</b> SLEEPING IN PUBLIC/人前の居眠り	space	activity	safeness
122	<b>100</b> PEDESTRIAN STREET/歩行者街路	space	activity	individuality
123	<b>103</b> SMALL PARKING LOTS/小さなパーキング	space	activity	quietness
124	<b>105</b> SOUTH FACING OUTDOORS/南面するにわ	space	activity	activity
125	<b>106</b> POSITIVE OUTDOOR SPACE/「正」の戶外スペース	space	activity	activity
126	<b>111</b> HALF-HIDDEN GARDEN/見え隠れの庭	space	activity	activity
127	<b>112</b> ENTRANCE TRANSITION/入ると別世界	space	activity	stimulation
128	<b>113</b> CAR CONNECTION/マイカーの置き場所	space	activity	functionality
129	<b>114</b> HIERARCHY OF OPEN SPACE/オープンスペースの序列	space	activity	safeness
130	<b>115</b> COURTYARDS WHICH LIVE/生き生きとした中庭	space	activity	activity
131	<b>119</b> ARCADES/アーケード	space	activity	functionality
132	<b>125</b> STAIR SEATS/階段に座る	space	activity	activity
133	<b>127</b> INTIMACY GRADIENT/親密さのグレード	space	activity	individuality
134	<b>128</b> INDOOR SUNLIGHT/室内の陽光	space	activity	naturalness
135	<b>130</b> ENTRANCE ROOM/玄関室	space	activity	functionality
136	<b>131</b> THE FLOW THROUGH ROOMS/部屋から部屋へ	space	activity	activity
137	<b>132</b> SHORT PASSAGES/短い廊下	space	activity	activity
138	<b>133</b> STAIRCASE AS A STAGE/階段室をステージに	space	activity	activity
139	<b>135</b> TAPESTRY OF LIGHT AND DARK/明と暗のつづれ織り	space	activity	stimulation
140	<b>136</b> COUPLE'S REALM/夫婦の領土	space	activity	individuality
141	<b>137</b> CHILDREN'S REALM/子供の領土	space	activity	individuality
142	<b>138</b> SLEEPING TO THE EAST/東向きの寝室	space	activity	naturalness
143	<b>139</b> FARMHOUSE KITCHEN/農家風キッチン	space	activity	commonness
144	<b>140</b> PRIVATE TERRACE ON THE STREET/通りのテラス	space	activity	commonness
145	<b>141</b> A ROOM OF ONE'S OWN/自分だけのへや	space	activity	individuality
146	<b>142</b> SEQUENCE OF SITTING SPACES/随所に腰をおろす場所	space	activity	quietness
147	<b>143</b> BED CLUSTER/ベッドクラスター	space	activity	belonging
148	<b>146</b> FLEXIBLE OFFICE SPACE/変幻自在のオフィス空間	space	activity	diversity
149	<b>147</b> COMMUNAL EATING/会食	space	activity	belonging
150	<b>148</b> SMALL WORK GROUPS/小さな仕事仲間	space	activity	activity
151	<b>149</b> RECEPTION WELCOMES YOU/あたたかい受付	space	activity	activity
152	<b>150</b> A PLACE TO WAIT/待ち合わせ場所	space	activity	activity
153	<b>151</b> SMALL MEETING ROOMS/小さな集會室	space	activity	activity
154	<b>152</b> HALF-PRIVATE OFFICE/半私的なオフィス	space	activity	individuality
155	<b>154</b> TEENAGER'S COTTAGE/ティーンエイジャーの離れ	space	activity	independence
156	<b>155</b> OLD AGE COTTAGE/老人の離れ	space	activity	independence
157	<b>156</b> SETTLED WORK/腰をすえた仕事	space	activity	quietness
158	<b>157</b> HOME WORKSHOP/ホーム・ワークショップ	space	activity	individuality
159	<b>158</b> OPEN STAIRS/屋外階段	space	activity	individuality
160	<b>159</b> LIGHT ON TWO SIDES OF EVERY ROOM/どの部屋にも二面採光を	space	activity	naturalness
161	<b>160</b> BUILDING EDGE/建物の外回り	space	activity	activity
162	<b>161</b> SUNNY PLACE/陽だまり	space	activity	naturalness
163	<b>162</b> NORTH FACE/建物の北面	space	activity	activity
164	<b>163</b> OUTDOOR ROOM/戸外室	space	activity	activity
165	<b>166</b> GALLERY SURROUND/画廊	space	activity	individuality
166	<b>167</b> SIX-FOOT BALCONY/奥行き6feetのバルコニー	space	activity	individuality
167	<b>169</b> TERRACED SLOPE/傾斜面をテラスに	space	activity	naturalness
168	<b>170</b> FRUIT TREES/果樹を植える	space	activity	naturalness

太字:1~92(町、コミュニティー)、標準:93~204(建物)、斜体:205~253(施工)

表1 パタン・ランゲージのコンセプトとメッセージ(その3)

No.	パタン・ランゲージ	コンセプト	メッセージ	要 約
169 171	TREE PLACES/樹がある場所	space	naturalness	既存の樹木をそのまま残し
170 172	GARDEN GROWING WILD/野生の庭	space	naturalness	野生と教化のバランス
171 173	GARDEN WALL/庭囲い	space	quietness	騒音を忘れた大きな安らぎ
172 174	TRELLISED WALK/格子棚の散歩道	space	quietness	特別な保護やくつろいだ雰囲気
173 175	GREENHOUSE/温室	space	activity	熱源、食物源としてのコンサバトリー
174 176	GARDEN SEAT/庭のベンチ	space	quietness	自分以外のものが目に入らない、静かな庭の腰掛
175 177	VEGETABLE GARDEN/菜園	space	naturalness	人間生活の基本要素
176 182	EATING ATMOSPHERE/食事の雰囲気	space	functionality	卓上に照明を下げ、人々の上に明かりだまりを...
177 183	WORKSPACE ENCLOSURE/仕事場の仕切り	space	individuality	囲われ過ぎたり露出しすぎた空間は...
178 184	COOKING LAYOUT/調理場のレイアウト	space	functionality	食事を用意するためのワークショップ
179 185	SITTING CIRCLE/くまるま座	space	activity	人は横に並ぶより一定の角度をもって座る
180 186	COMMUNAL SLEEPING/ざこ寝	space	belonging	会食と同じくらい...社会的機能に不可欠のもの
181 187	MARRIAGE BED/新婚ベッド	space	safeness	夫婦の共同生活の中心
182 188	BED ALCOVE/アルコーブにベッド	space	individuality	寝室は無意味(相互関係がない)である
183 189	DRESSING ROOM/着替え室	space	individuality	単なる自足的な行為
184 203	CHILD CAVES/ちびっこの洞穴	space	safeness	子供は小さな洞穴のような場所に入るのを好む
185 204	SECRET PLACE/秘密の場所	space	safeness	人目につかず物を隠したり...
186 226	COLUMN PLACE/柱のある空間	space	safeness	構造的な根拠だけで形を割り出した柱では...
187 241	SEAT SPOTS/腰を下ろす場所	space	naturalness	人の座っていた3つのベンチはいずれも...
188 242	FRONT DOOR BENCH/玄関前にベンチ	space	activity	建物の外縁の形成に役立つ
189 243	SITTING WALL/座れるさかい壁	space	activity	両者を融合するような境目
190 252	POOLS OF LIGHT/光のたまり	space	belonging	均等な照明は空間の社会性を破壊する
191 134	ZEN VIEW/禅窓	detail	stimulation	暗示的な眺望を完成するような窓
192 164	STREET WINDOWS/表通りの窓	detail	activity	屋内生活と街路生活との間に独特の関係を...
193 165	OPENING TO THE STREET/通りに開く	detail	learning	通行人にはすっかり露出した方がうまくいく
194 179	ALCOVES/アルコーブ	detail	individuality	同一空間で一人か二人で孤立できる機会
195 180	WINDOW PLACE/窓辺	detail	safeness	各部屋の窓の一つは、空間としての効用を高める
196 181	THE FIRE/炉火	detail	quietness	休息の象徴であり、休息へのいざないであった
197 190	CEILING HEIGHT VARIETY/天井高の変化	detail	stimulation	天井高を同じにすると居心地のよい建物にならない
198 191	THE SHAPE OF INDOOR SPACE/室内空間の形状	detail	identity	イメージや幻想に寄り掛からない(合理的な変形)
199 192	WINDOWS OVERLOOKING LIFE/マチを見下ろす窓	detail	activity	眺望のない部屋は牢獄も同然
200 193	HALF-OPEN WALL/半分開く壁	detail	individuality	あまりに閉鎖的(開放的)な部屋では...
201 194	INTERIOR WINDOWS/部屋間の窓	detail	activity	屋内空間どうしを結びつける窓
202 195	STAIRCASE VOLUME/階段室の大きさ	detail	safeness	階段に正確な寸法を与え
203 196	CORNER DOORS/部屋隔の扉	detail	quietness	動線が室内を分断すると居心地のよい部屋には...
204 197	THICK WALLS/厚い壁	detail	activity	平滑で硬い壁の家は無性格で死んだも同然
205 198	CLOSETS BETWEEN ROOMS/部屋境界のクローゼット	detail	activity	けっして衣装戸棚を周回壁に設けないう
206 199	SUNNY COUNTER/陽の当たるカウンタートップ	detail	activity	暗い陰気な台所は気がめいる
207 200	OPEN SHELVES/浅い棚	detail	functionality	奥行き深い食器棚は貴重な空間を無駄にし...
208 201	WAIST-HIGH SHELF/腰の高さの棚	detail	functionality	腰の高さの棚に集まる最も日常的な物
209 202	BUILT-IN SEATS/造りつけの腰掛	detail	functionality	建物の至る所に...
210 219	FLOOR-CEILING VAULTS/ヴォールト天井と床	detail	stimulation	天井高の変化
211 220	ROOF VAULTS/ヴォールト屋根	detail	learning	屋根らしい屋根
212 221	NATURAL DOORS AND WINDOWS/自然なドアと窓	detail	naturalness	窓やドアの正しい位置を見つける
213 222	LOW SILL/低い窓台	detail	activity	屋外との触れ合いを保つ
214 223	DEEP REVEALS/深めの(窓の)抱き	detail	naturalness	窓枠は深く、斜め切りにし...
215 224	LOW DOORWAY/くぐり戸	detail	naturalness	低いドアの方が深い意味をもつ場合もある
216 225	FRAMES AS THICKENED EDGES/厚めの開口縁取り	detail	safeness	窓の縁に厚みをつけて補強
217 227	COLUMN CONNECTION/柱の接合部	detail	safeness	強度は接合部によって決まる
218 228	STAIR VAULT/階段下のヴォールト	detail	safeness	自然な工法
219 229	DUCT SPACE/配管スペース	detail	functionality	ヴォールト天井のスパンドレル部分に配管
220 230	RADIANT HEAT/輻射暖房	detail	naturalness	日光と炎が最良の熱源だという実感を...
221 231	DORMER WINDOWS/ドーマー窓	detail	naturalness	建物の最上階は屋根裏にすっぽり納めるべき
222 232	ROOF CAPS/屋根の上の飾り	detail	stimulation	屋根飾りは(構造的に)自然な方法を選ぶこと
223 233	FLOOR SURFACE/床の表面	detail	functionality	床をサービスとくつろぎの領域に分割する
224 234	LAPPED OUTSIDE WALLS/重ね張りの外壁	detail	stimulation	...それと同時に人間が何らかの関心をもてる
225 235	SOFT INSIDE WALLS/室内壁はソフトに	detail	naturalness	自然なテクスチャー
226 236	WINDOWS WHICH OPEN WIDE/いっぱい開く窓	detail	stimulation	窓は外界との接触点である。それは...
227 237	SOLID DOORS WITH GLASS/厚い扉にも小窓を	detail	stimulation	音をささげると同時に何らかの視覚的なつながり
228 238	FILTERED LIGHT/柔らげた光	detail	naturalness	木もれ陽が美しいのはなぜか
229 239	SMALL PANES/小さな窓格子	detail	safeness	板ガラスの窓がかえって人を眺望から遠ざける
230 240	HALF-INCH TRIM/半インチの見切り縁	detail	naturalness	見切り縁を必要としない精密さは...
231 244	CANVAS ROOFS/キャンパスの日除け	detail	naturalness	風や光や太陽になじむ柔らかさ
232 245	RAISED FLOWERS/手の高さの花	detail	naturalness	...しかし低すぎて手でさわるのができない
233 246	CLIMBING PLANTS/つる草	detail	naturalness	建造物と自然をなじませる効果
234 247	PAVING WITH CRACKS BETWEEN THE STONES/小割石を敷き詰める	detail	naturalness	歩き心地がよいし、植物のためにもなる
235 248	SOFT TILE AND BRICK/柔らかめのタイルとレンガ	detail	naturalness	人々が歩いた道筋を記憶にとどめる
236 249	ORNAMENT/装飾	detail	individuality	物の境目は物そのものと同じくらい重要である
237 250	WARM COLORS/暖色	detail	naturalness	陽光は暖かい光である
238 251	DIFFERENT CHAIRS/まちまちの椅子	detail	diversity	量産イスは平均的な人間が快適
239 253	THINGS FROM YOUR LIFE/思い出の品々	detail	individuality	しつらえは訪問者のためか自分のためか
240 205	STRUCTURE FOLLOWS SOCIAL SPACES/生活空間に従	structure		
241 206	EFFICIENT STRUCTURE/無駄のない構造	structure		
242 207	GOOD MATERIALS/ふさわしい材料	structure		
243 208	GRADUAL STIFFENING/順に固める構造	structure		
244 209	ROOF LAYOUT/屋根の割り付け	structure		
245 210	FLOOR AND CEILING LAYOUT/床と天井の割り付け	structure		
246 211	THICKENING THE OUTER WALLS/外壁は厚く	structure		
247 212	COLUMNS AT THE CORNERS/隅の柱	structure		
248 213	FINAL COLUMN DISTRIBUTION/補強材の配分	structure		
249 214	ROOT FOUNDATIONS/根のような基礎	structure		
250 215	GROUND FLOOR SLAB/1階の床スラブ	structure		
251 216	BOX COLUMNS/ボックス柱	structure		
252 217	PERIMETER BEAMS/周回する桁	structure		
253 218	WALL MEMBRANES/耐力隔壁	structure		

太字:1~92(町、コミュニティ)、標準:93~204(建物)、斜体:205~253(施工)

住宅設計（都市のインテリア）の提案が続く。

しかし結果的に、提案数からみて最も多数を占めるのはやはり住まいの中、家族間での公私の融合に係るパタン・ランゲージとなっている。前述した **139 FARMHOUSE KITCHEN / 農家風キッチン**をはじめ、子供の引き籠りや家族崩壊の危機を遠ざけ、そして近隣からの孤立を防ぐインテリア設計のアイデアが、実証データを伴って提案されている。

**(5) detail**

ディテールのアイデアは一般に窓、扉に集中するものであるが、**detail** で括られたパタン・ランゲージを一覧すると、改めてその理由が明らかになる。内と外を遮りかつ繋ぐこれら装置が、都市とインテリアの二律背反を緩和していたことがわかるからである。**164 STREET WINDOWS / 表通りの窓**, **165 OPENING TO THE STREET / 通りに開く**, **179 ALCOVES / アルコーブ**, **180 WINDOW PLACE / 窓辺**, **222 LOW SILL / 低い窓台**, **236 WINDOWS WHICH OPEN WIDE / いっぱい** **に開く窓**など。玄関扉については、よく見られる（そして避けることが難しい）仰々しさを嫌ってか、記述そのものがない。**224 LOW DOORWAY / くぐり戸**は、普段隣人が訪れる勝手口への思い入れである。また、今日のエコブームを先取りするパタン・ランゲージ（例えば **221 NATURAL DOORS AND WINDOWS / 自然なドアと窓**）も多数取り上げられ、パッシブな思考法の先鞭として興味深い。

**5. 結論**

253 編のパタン・ランゲージのうち、筆者が判別した都市のインテリアに関する記述は 164 編であった。筆者が冒頭に掲げた「本書は都市のインテリアに関する書ではなかったか」一との仮説は、量的には一応実証された立証されたといえるであろう。では内容的にはどうか。

経験豊かな著者の著作を浅学の筆者が読み解くに当たって、各編の内容への言及はひとまず棚上げし、著者が明記しなかった計画コンセプトを各編に読み与えて、全体像の中での整合性を把握する方法をとった。つまり、予備的考察の項で述べたインテリア概念の、外延の強化を図ったわけである。したがって、個々の着想が実は孤立していない—例えば**帰属性 belonging** は 7 パタン・ランゲージで重複して取り上げられている—と分かる要約（表 1）の作成をもって、一応の質的な証明を終えたと結論したい。

**結語**

課題の本質を読者に熟考させるためにアレクサンダーが

敢えてバイブル仕立てにまとめた著作に対して、筆者はハンドブックとして活用を優先してわざわざ索引を付け加えた。「都市のインテリア」との手に余る着想を言挙げするための苦肉の策であったとして、アレクサンダーのファンや研究者にはご容赦を願いたい。またパタン・ランゲージの内容はいたって多義的であり、以上は筆者の、そして今回の読解を根拠にした暫定的な結論であることは言うまでもなく、別のご提案を待ちたい。

**註記**

- (1) 「パタン・ランゲージ（環境設計の手引き）」平田翰那 訳、鹿島出版会 1984  
を主として引用しつつ、原著  
”A PATTERN LANGUAGE”, OXFORD UNIVERSITY PRESS 1977, NEW YORK  
を適宜読み合わせて、語感の保全に努めた。
- (2) 「モードの体系」ロラン・バルト、佐藤信夫訳、みすず書房 1972
- (3) バルトの著作には signification（意味作用）の研究書であることを示す記号学（semiology）が当てられているが、この研究の表題には、より広義の記号機能を課題とする記号論（semiotics）を当てた。
- (4) 図 1 に引用した意味作用の単位の原型は、下図の通りである。**E** は記号単位の表現面（Expression）、**C** は同内容面（Content）を示す。記号論の目的はものの（物体や映像）が意味を担う仕組み（コード）の解明であり、バルトはファッション雑誌が流行を作り出すときに用いるレトリックを、デノテーション過程とコノテーション過程を入れ子に組み合わせた下図の三層構造を使って巧みに、平易に改題している。



- (5) 観察対象の＜解釈的な＞分類尺度の意。アレクサンダーは、当初の研究スタイルからみて多変量解析法の応用を想定していたと想像されるので、メッセージの分類に当たっては意味軸（意味の対）を用いた。  
(studio HAIYAMA)